

研究機関名：東北大学

受付番号： 2013 - 1 - 528
研究課題名 大規模災害が心理、脳形態・脳機能へ与える影響に関する縦断的研究
研究期間 西暦 2011年 8月（倫理委員会承認後）～2016年 7月
対象材料 <input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名 ） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名 ） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（MRI データ、心理データ） 上記材料の採取期間 西暦 2008年 7月～ 西暦 2011年 7月
意義、目的 大規模災害が与える心理的影響として、心的外傷後ストレス障害（PTSD）が良く知られている。過去の PTSD の脳研究では被災後の脳形態の変化を調べているが、災害前後の脳形態の変化に関する研究は存在しない。本研究では、東日本大震災で比較的軽度の被災をし、過去に我々の研究室で行った脳画像研究の被験者で、心理計測・脳画像・安静時脳機能データが存在する健常大学生被験者を対象に災害前後の心理や脳形態・脳機能の変化を調査する。大規模災害に起因するこれら変化を予測するための情報を付与でき、今後の災害後の心理的ケアに有用となると期待する。また、被災地のメンタルヘルスについて、軽度ではあるが広範な影響に対して光を当てることになり、より広範囲の被災者に対するケアの重要性が示唆され得る。
方法 平成 23 年 6 月～平成 25 年 8 月にかけて実施した『大規模災害が認知・行動へ与える影響に関する社会脳科学的研究』に於いて計測した心理データおよび脳画像データと、東日本大震災以前に我々の研究室で行った過去の実験に於いて計測していた心理データ、脳画像データを再解析する。震災後に測定した PTSD 症状や不安・うつ状態の指標などのデータと、脳画像データの変化量との関連を調査し、震災が心理指標・脳形態・脳機能に与える影響について検討する。更に震災経験を挟まない対照群を得るために、震災前に複数回当研究室の MRI 検査に参加し、縦断的な脳画像データ変化が確認できる被験者についてデータの再解析を行う。
問い合わせ・苦情等の窓口 実施責任者：東北大学 加齢医学研究所 脳機能開発研究分野 川島隆太 連絡先：〒980-8575 仙台市青葉区星陵町 4-1 東北大学 加齢医学研究所 脳機能開発研究分野 TEL & FAX 022-717-7988